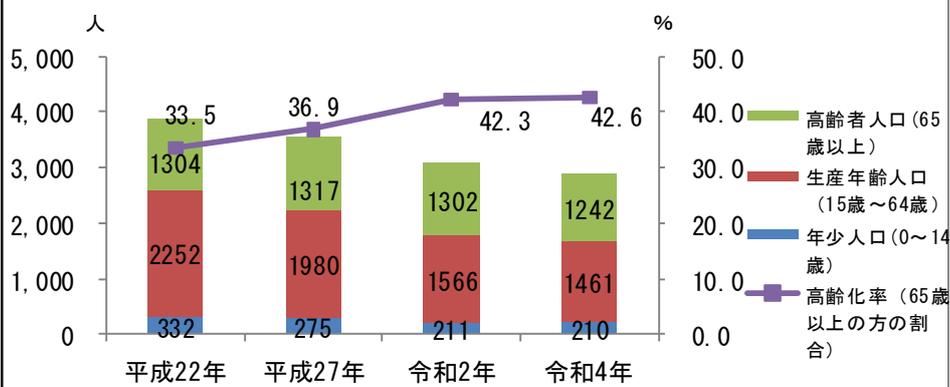
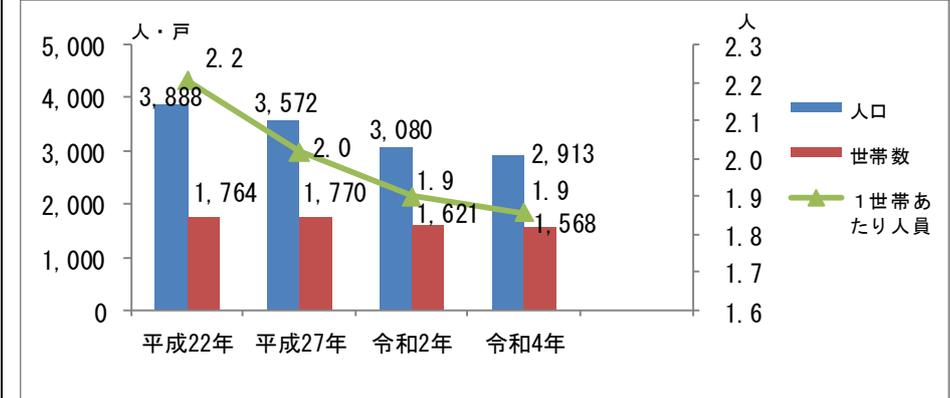
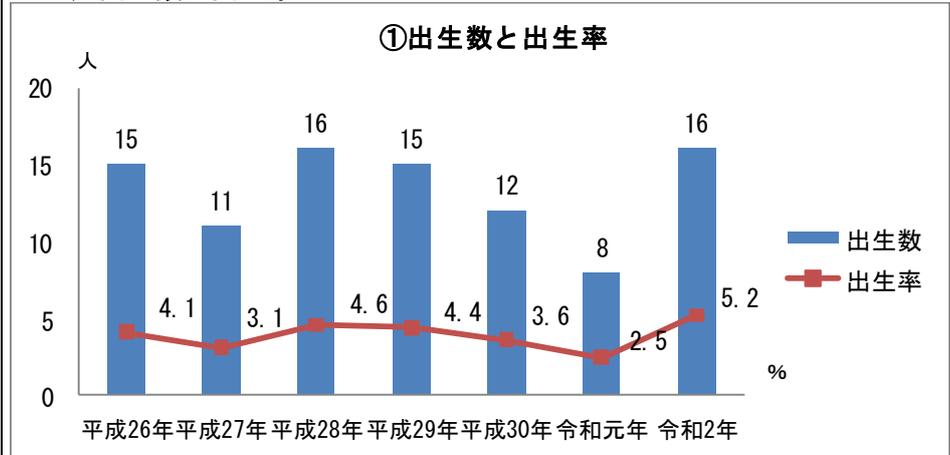


第2章 月形町民の健康を取り まく状況の変化

1 月形町の概況

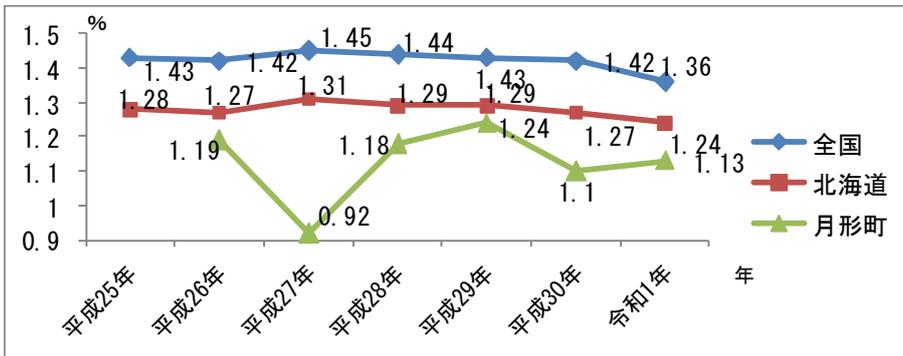
データ	データからの読み取り																									
<p>(1) 人口構成</p> <p>1) 総人口、年齢3区分別人口、高齢化率の推移</p>  <table border="1"> <caption>人口構成データ (推定)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>年少人口 (0~14歳)</th> <th>生産年齢人口 (15歳~64歳)</th> <th>高齢者人口 (65歳以上)</th> <th>高齢化率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成22年</td> <td>332</td> <td>2252</td> <td>1304</td> <td>33.5</td> </tr> <tr> <td>平成27年</td> <td>275</td> <td>1980</td> <td>1317</td> <td>36.9</td> </tr> <tr> <td>令和2年</td> <td>211</td> <td>1566</td> <td>1302</td> <td>42.3</td> </tr> <tr> <td>令和4年</td> <td>210</td> <td>1461</td> <td>1242</td> <td>42.6</td> </tr> </tbody> </table>	年	年少人口 (0~14歳)	生産年齢人口 (15歳~64歳)	高齢者人口 (65歳以上)	高齢化率 (%)	平成22年	332	2252	1304	33.5	平成27年	275	1980	1317	36.9	令和2年	211	1566	1302	42.3	令和4年	210	1461	1242	42.6	<p>人口は減少傾向にあり、少子高齢化が進んでいる。</p> <p>年少人口割合は減少し続けている。子どものいる家庭が少ないことで、親同士の交流が持ちにくくなる可能性があるため、母親同士が交流し、情報交換をできる機会を設ける必要がある。生産年齢人口も減少し続けており、年少人口の更なる減少や高齢者の支え手の不足に繋がると考える。</p>
年	年少人口 (0~14歳)	生産年齢人口 (15歳~64歳)	高齢者人口 (65歳以上)	高齢化率 (%)																						
平成22年	332	2252	1304	33.5																						
平成27年	275	1980	1317	36.9																						
令和2年	211	1566	1302	42.3																						
令和4年	210	1461	1242	42.6																						
<p>2) 世帯の状況</p>  <table border="1"> <caption>世帯の状況データ (推定)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>人口</th> <th>世帯数</th> <th>1世帯あたり人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成22年</td> <td>3,888</td> <td>1,764</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>平成27年</td> <td>3,572</td> <td>1,770</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>令和2年</td> <td>3,080</td> <td>1,621</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td>令和4年</td> <td>2,913</td> <td>1,568</td> <td>1.9</td> </tr> </tbody> </table>	年	人口	世帯数	1世帯あたり人員	平成22年	3,888	1,764	2.2	平成27年	3,572	1,770	2.0	令和2年	3,080	1,621	1.9	令和4年	2,913	1,568	1.9	<p>世帯数も年々減少しており、1世帯あたりの人員が2人を切っている。</p>					
年	人口	世帯数	1世帯あたり人員																							
平成22年	3,888	1,764	2.2																							
平成27年	3,572	1,770	2.0																							
令和2年	3,080	1,621	1.9																							
令和4年	2,913	1,568	1.9																							
<p>(2) 出生の推移</p> <p>1) 出生数と出生率</p> <p>① 出生数と出生率</p>  <table border="1"> <caption>出生数と出生率データ (推定)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>出生数</th> <th>出生率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年</td> <td>15</td> <td>4.1</td> </tr> <tr> <td>平成27年</td> <td>11</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td>平成28年</td> <td>16</td> <td>4.6</td> </tr> <tr> <td>平成29年</td> <td>15</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>平成30年</td> <td>12</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>令和元年</td> <td>8</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>令和2年</td> <td>16</td> <td>5.2</td> </tr> </tbody> </table>	年	出生数	出生率 (%)	平成26年	15	4.1	平成27年	11	3.1	平成28年	16	4.6	平成29年	15	4.4	平成30年	12	3.6	令和元年	8	2.5	令和2年	16	5.2	<p>出生数は年ごとに差が見られるが、この数年、20名を下回っている。出生率は人口千人あたり3~5%で推移している。</p> <p>出生数、出生率の減少を抑えるために、町民が安心して子どもを産み育てるための体制づくり、妊娠中からの継続的な支援を行うことが必要であると考える。</p>	
年	出生数	出生率 (%)																								
平成26年	15	4.1																								
平成27年	11	3.1																								
平成28年	16	4.6																								
平成29年	15	4.4																								
平成30年	12	3.6																								
令和元年	8	2.5																								
令和2年	16	5.2																								

資料：住民基本台帳

資料：住民基本台帳

資料：住民基本台帳

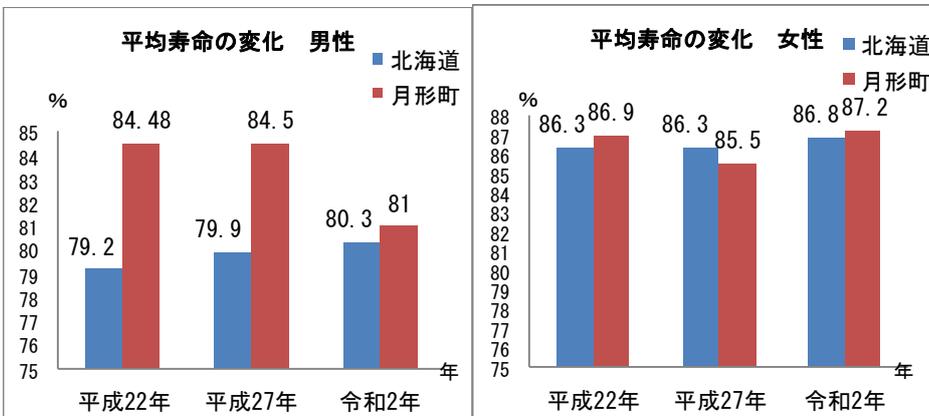
2) 合計特殊出生率



資料：住民基本台帳

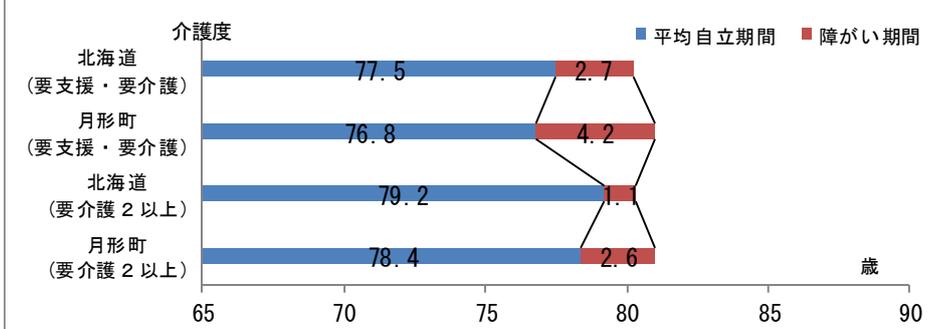
月形町の合計特殊出生率は全国、北海道を下回り、平成27年には1を切っている。
 ※合計特殊出生率とは、15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの

(3) 平均寿命、平均自立期間

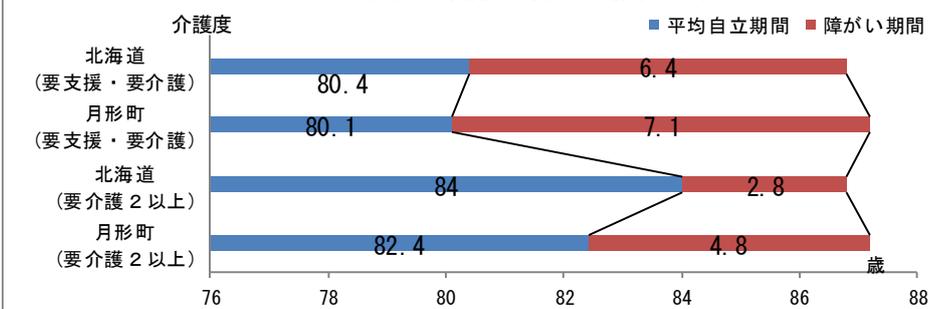


令和2年の月形町の平均寿命は男性81歳、女性87.2歳である。男女とも北海道の値を上回っているが、平均自立期間で見ると月形町は男女とも北海道より短く、障がい期間が長くなっている。また、要介護2以上と要支援・要介護を比較すると介護度が高いほど障がい期間が短くなっている。

令和2年度平均自立期間 男性



令和2年度平均自立期間 女性

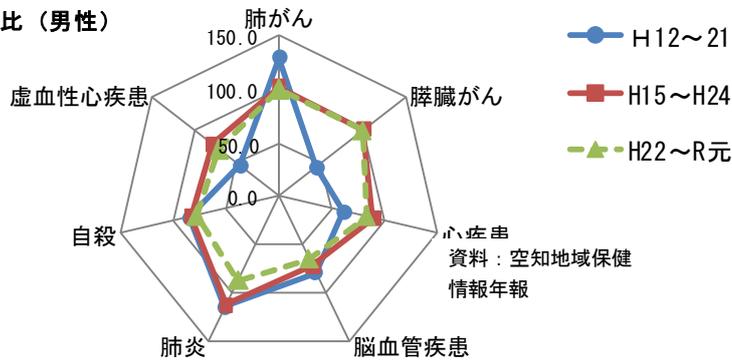


資料：KDB (国保データベースシステム)

(4) 死亡の状況

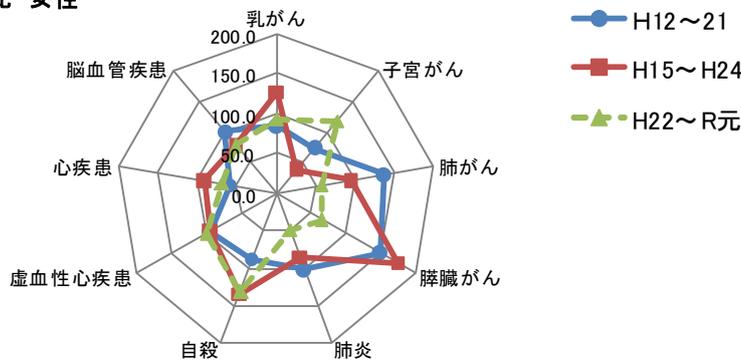
1) 標準化死亡比 (*SMR) の推移

標準化死亡比 (男性)



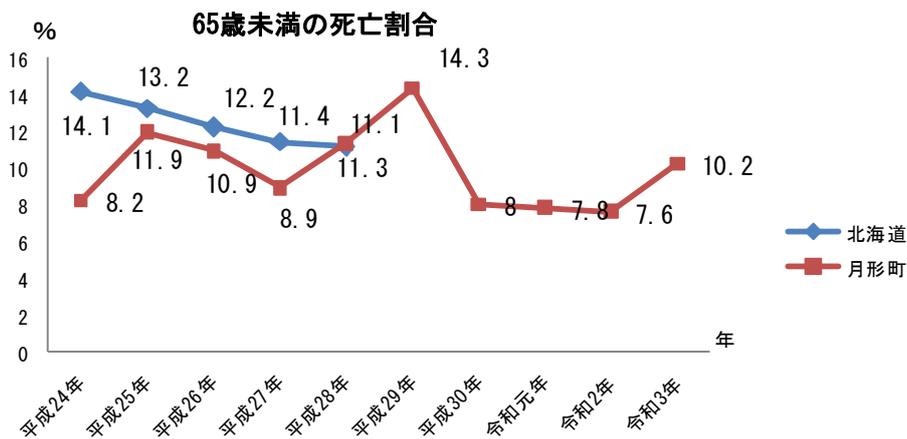
資料: 空知地域保健情報年報

標準化死亡比 女性



資料: 空知地域保健情報年報

2) 65歳未満の死亡割合



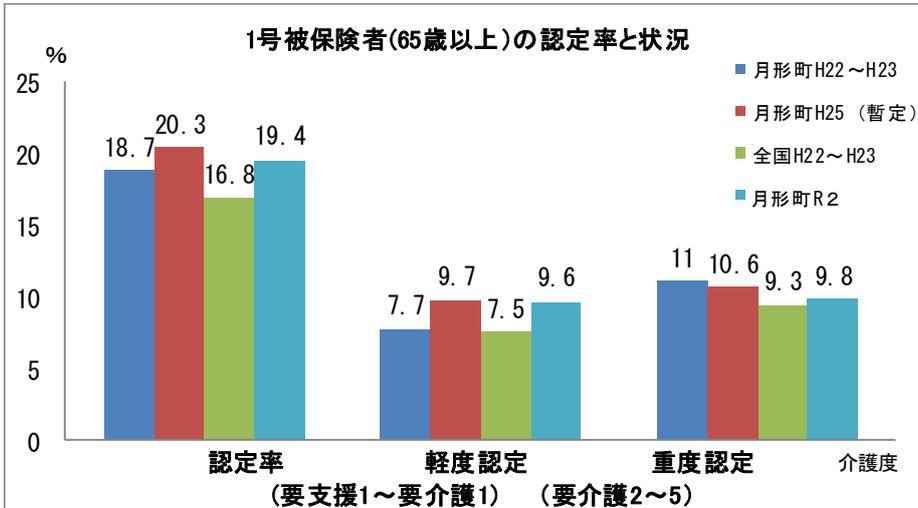
資料: 空知地域保健情報年報

平成22年～令和元年までのSMRでは男性は「肺がん」「膵臓がん」「肺炎」「心疾患」の順に高く、女性は「自殺」「子宮がん」「虚血性心疾患」「乳がん」の順に高い>(*SMR～年齢構成の違いによる影響を除き、死亡率を全国と比較したもの)

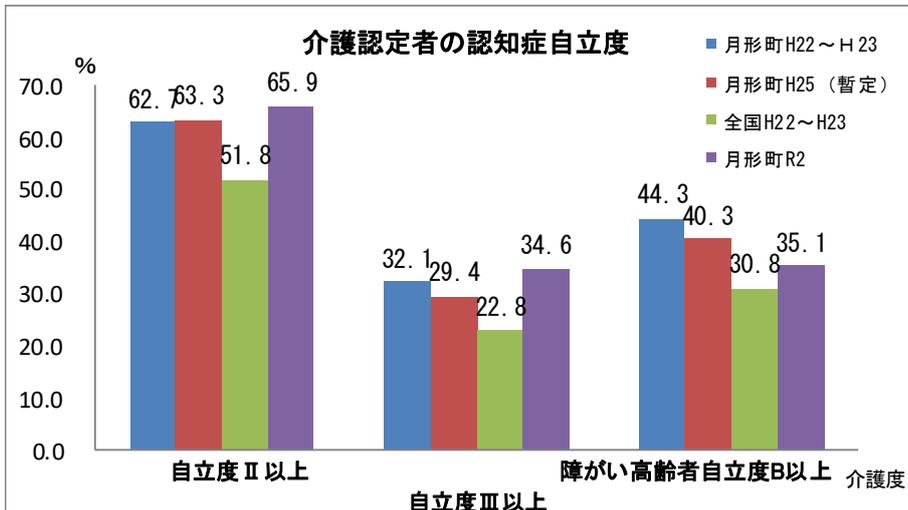
男性は全体的に減少傾向であるが、女性は「肺がん」「膵臓がん」が減少し、「子宮がん」が増加している。

65歳未満の早世は年によって差が見られる。平成24年から北海道の値を下回る年が続いたが、平成28年で北海道を上回り、平成29年度は死亡全体の15%以上を占めている。

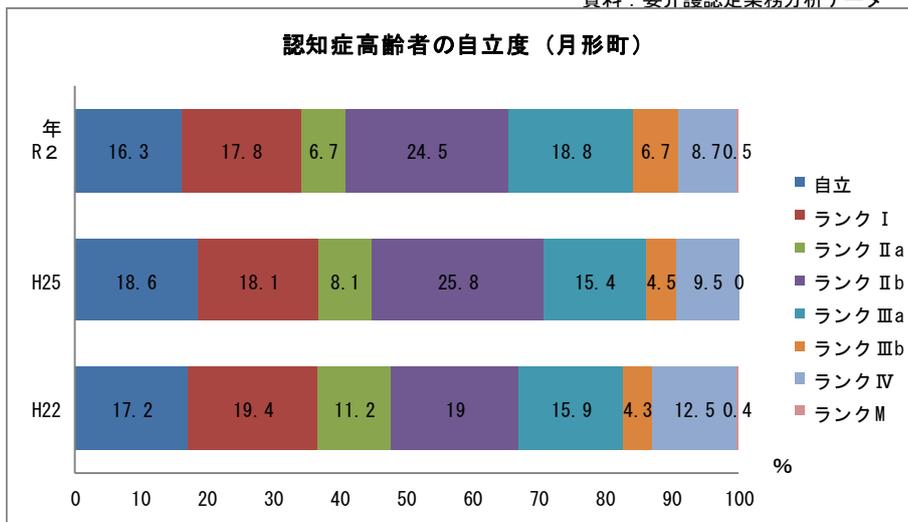
(5) 要介護認定者の状況と認知度の状況



資料：要介護認定業務分析データ



資料：要介護認定業務分析データ



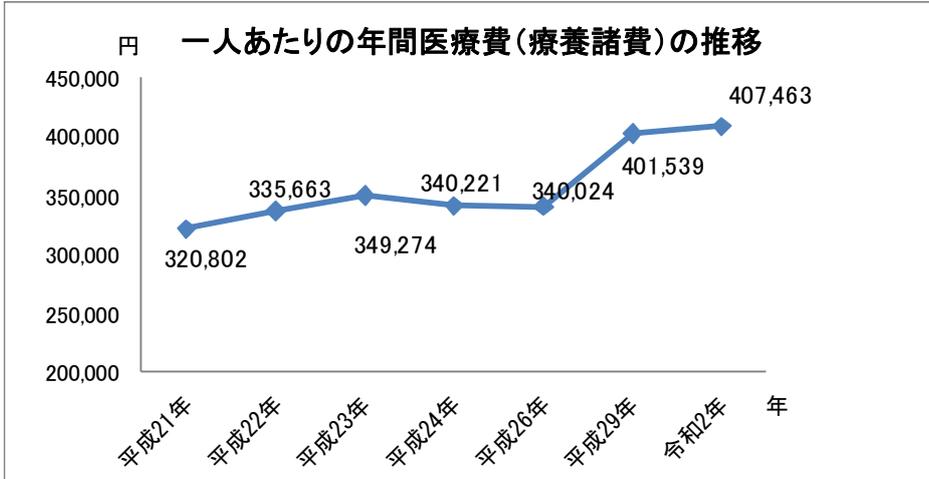
資料：要介護認定業務分析データ

平成25年度と比較し、要介護認定率に大きな変化はなく、認定者の重度別でもほぼ横ばいに推移している。全国平均と比べると、認定率は高くなっている。

要介護認定者の認知症の割合は全ての自立度において割合が増加している。自立度別にみると自立、自立度Ⅰ、自立度Ⅱ、自立度Ⅳに分類される認知症の割合は減少し、自立度Ⅲの割合が増加している。

2 医療費の状況（月形町国民健康保険加入者分）

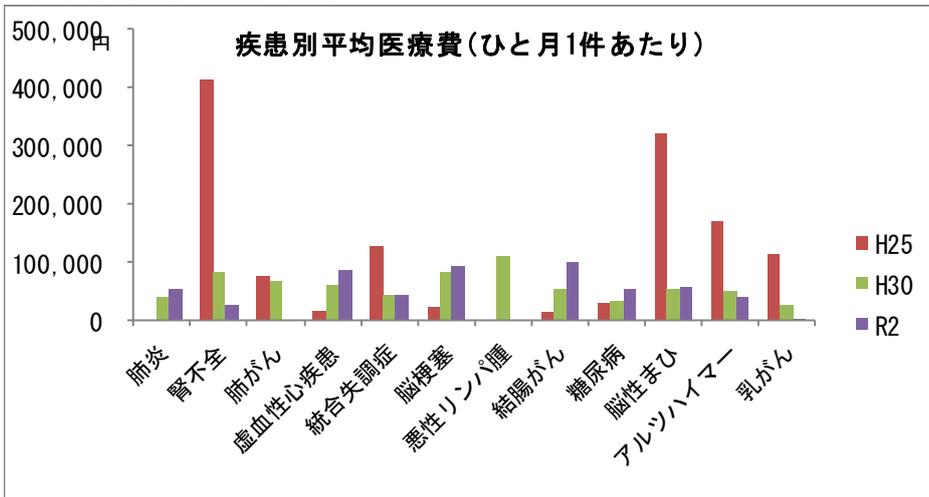
（1）一般被保険者一人あたりの年間医療費の推移



一般被保険者の医療費は増加している。

（2）疾患別医療費の推移

資料：KDB

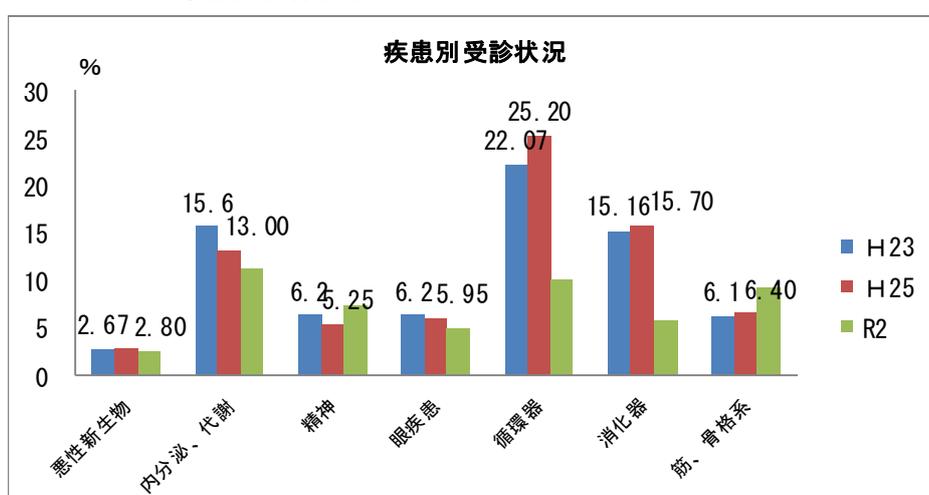


令和2年の1件あたりの疾患別平均医療費は、「肺炎」「虚血性心疾患」「脳梗塞」「結腸がん」が増加している。

（3）疾患別受診状況の推移

資料：KDB

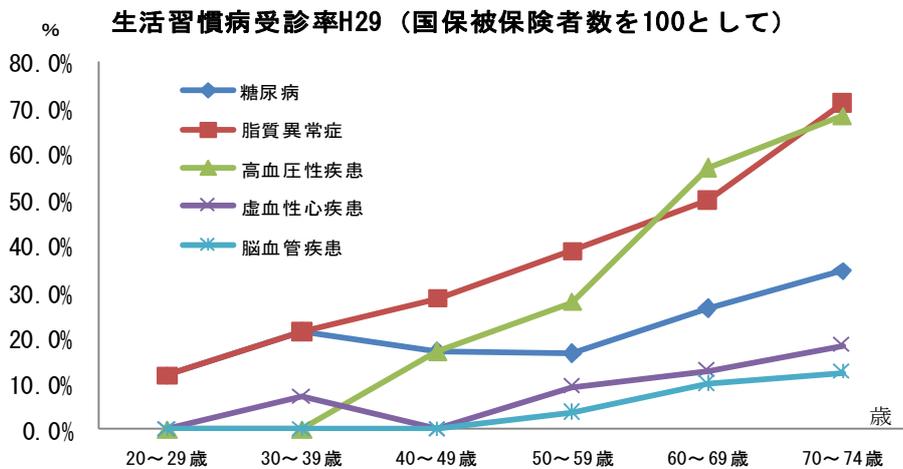
1）国民健康保険被保険者の受診状況（0～74歳）



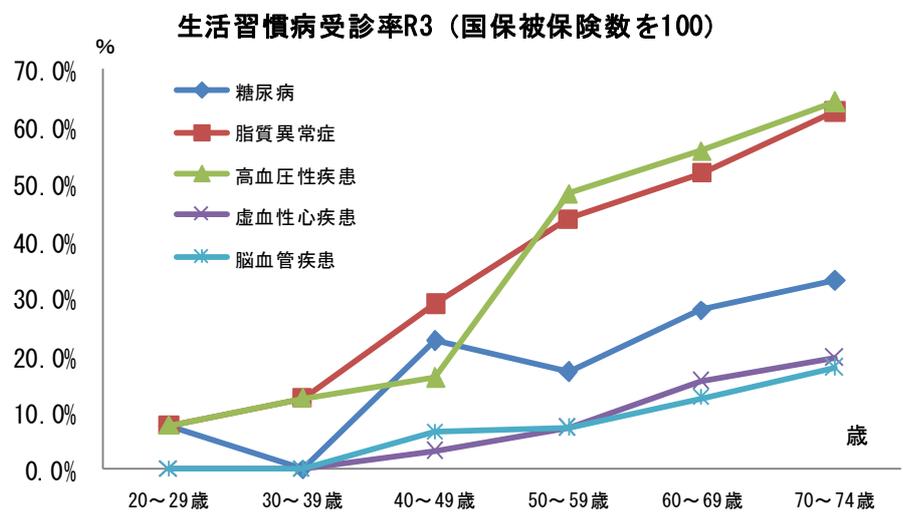
疾患別受診状況は、「精神」「筋、骨格系」が増加し、それ以外は減少している。

資料：KDB

2) 生活習慣病受診率



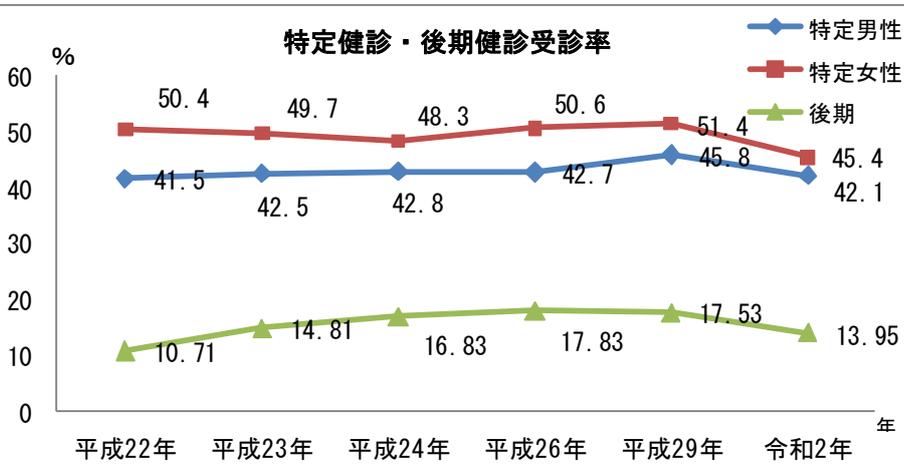
資料：KDB



資料：KDB

3 健康診断の状況

(1) 特定健診・後期高齢者健診の受診状況



資料：国保連合会 HP

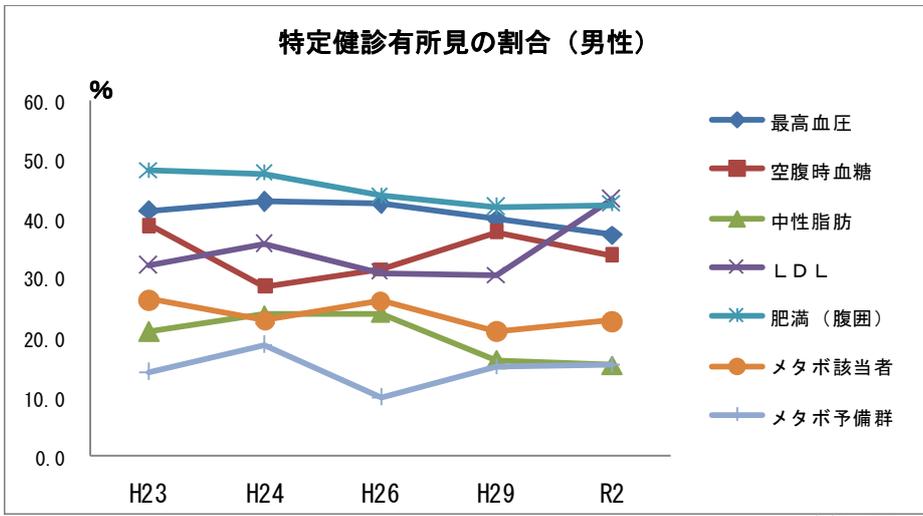
年齢が上がるにつれ受診率は上昇し、どの年代も脂質異常症が上位である。平成29年度は脳血管疾患が20～49歳まで0.0%であったが、令和3年度で40代の受診率が上昇している。

特定健診を受ける40歳代から受診率が上がる疾患が多いのに対し、糖尿病は50歳代から60歳代にかけて受診率が上がっていることから、壮年期における受診に対する意識の低さも可能性として考えられる。糖尿病による合併症のリスクも考慮し、糖尿病発症予防、重症化予防のための取り組みが必要である。

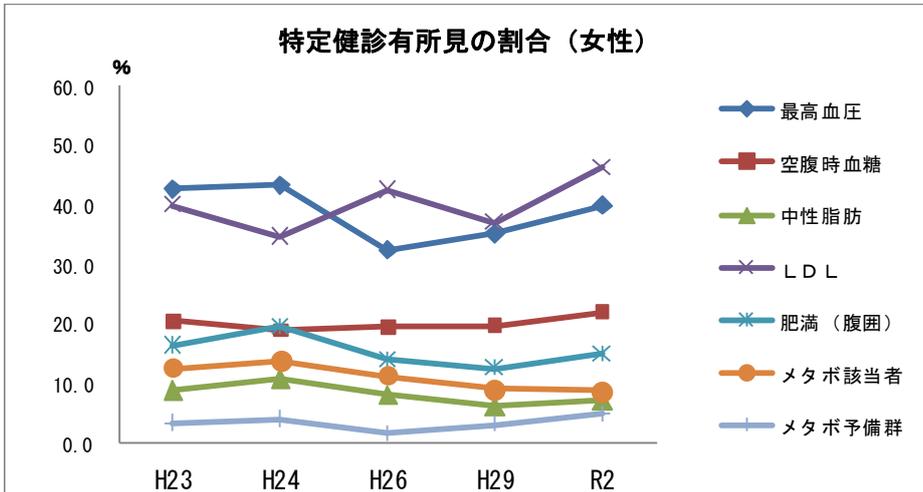
特定健診は女性は平成29年をピークに受診率が減少し、令和2年度では新型コロナウイルスの影響もあり大幅に減少した。

男性は受診率が微増しているが、特定健診2期計画の実施目標（50.0%）に到達していない。後期健診は年々受診率が増加していたが、平成29年度から減少し始め、特定健診と同様の要因で令和2年度に減少した。

(2) 特定健診の結果（有所見の割合）

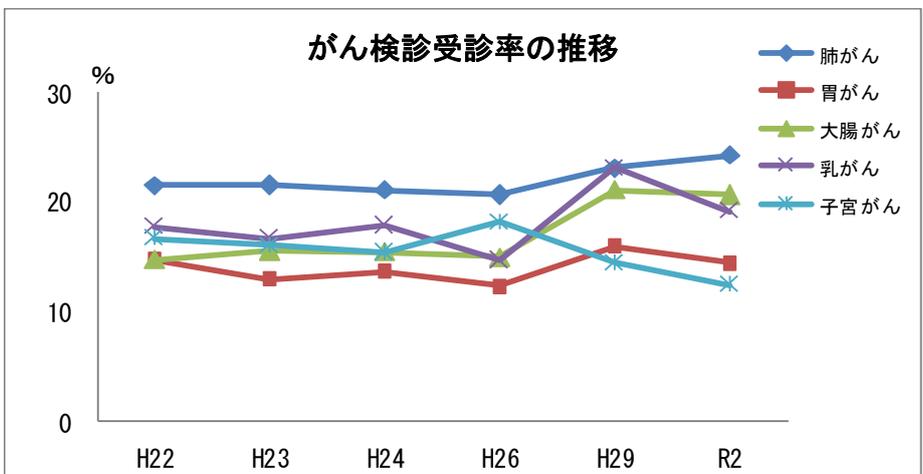


資料：KDB



資料：KDB

(3) がん検診の受診率の推移



資料：地域保健・健康増進事業報告

特定健診の有所見の割合は男性はLDL、腹囲、血圧の順に高いが、年次推移をみると、血圧と空腹時血糖、中性脂肪は減少しており、LDLと腹囲、メタボ該当者の増加が見られる。

女性はLDL、血圧、血糖の順に高いが、男性と比べ、全てにおいて増加がみられており、メタボ予備群の増加も見られる。月形町は農家が多いため、肥満は足腰への負担も多いと考えられる。

肺がん検診の受診率は増加しているが、肺がん以外は減少の傾向がみられる。がん検診未受診の原因を明らかにするとともに、がん検診の受診を促し、早期発見・早期治療することが必要である。

